

住みよいまちの実現へ

新たな可能性に挑戦する、町民主体のまちづくり



学校給食の無償化など充実する教育環境

9月1日、議会定例会議で行われた鈴木重男町長の5期目の所信表明を紹介します。

この度、多くの町民の皆様から、これまでの町政運営に対し深いご理解とご支持を賜り、無投票再選の栄に浴し5期目の町政の舵取り役を担わせていただきますことに、心より感謝申し上げますとともに、改めてその重責を痛感しているところであり、今後4年間にのみならず、誠意、謙虚な姿勢で町長の任に当たらせていただく所存です。

これまでの4期16年を振り返ってみますと、基礎的自治体としての行財政基盤の強化、災害に強い「安全・安心な町民生活」のための基盤整備、教育、医療、福祉の充実、安心して産み育てられる子育てしやすい環境の整備、いくつになっても安心して暮らし続けられる高齢者にやさしい環境づくりなど、町民が幸せを実感しながら、安全・安心な生活を送ることができよう、さまざまな対策を講じて参りました。

他方、町の最重要課題と位置付ける「人口減少問題」はなお

厳しい状況が続いているところですが、かつて日本創生会議において示された人口推計と比較し、その減少ペースが鈍化しているところであり、これまでに取り組んで参りました各種施策の効果が少しずつではありますが表れているものと認識しているところです。

このような状況を踏まえ、この先の4年間は、これまでの4期16年で取り組んできたさまざまな施策にさらに磨きをかけ、当機立断の行動と決断により新たな「町の魅力をさらに高める3つの挑戦」に取り組む、町民の皆さんの暮らしの質を向上させて参りたいと考えております。

「挑戦1」持続可能なまちづくり
「魅力高め、活力ある生活基盤の形成」

3つの挑戦の1点目は「持続可能なまちづくり」。「魅力高め、活力ある生活基盤の形

成」です。

町民が安全・安心に、幸せな生活を送ることができるよう環境を整え、共に、生活や経済活動に重要な新たな基盤整備など、次の施策に挑戦して参ります。

1つ目は「魅力高め、活力ある生活基盤の形成」です。道路ネットワーク整備の遅れが県北・沿岸北部地域の発展の遅れに繋がっていることから、構想路線に指定された内陸と沿岸を結ぶ「北岩手・北三陸横断道路」の早期着工・整備に取り組み、県央、県南地域との格差是正、地域振興による町民所得の向上、交流人口の拡大を目指すほか、町民生活の足となる公共交通サービスにおいて、自動運転化などによる効率的で効果的な仕組みを導入し、誰もが安心して移動できる環境の整備に努めて参ります。

2つ目は「脱炭素社会の推進」です。当町は平成11年から、他市町村に先駆けて風力発電、太陽光

発電、バイオマス発電など多様なクリーンエネルギーの生産に取り組んできました。現在、世界的にゼロカーボンの取り組みが推進される中、葛巻町だからできる先進的な取り組みで、町民の皆さんが「クリーンエネルギーのまち」を実感できる「自然エネルギーの地産地消の推進」に挑戦して参ります。

併せまして、CO2吸着源として環境保全に大きな役割を果たしている山林の適切な管理、活用に向け「森林資源循環の推進」に取り組んで参ります。

3つ目は「安全安心で持続可能なまちづくり」です。近年、さまざまな自然災害が頻発する状況の中、災害発生時

において迅速かつ的確に対応できるよう、消防団、自主防災組織などの「地域防災力の強化と消防・救急体制の充実」に取り組むほか、町民が安心して医療を受けられるよう、医師・看護師などの人材確保を含め「地域医療体制の維持・充実」に取り組んで参ります。

4つ目は「人口規模に応じたコンパクトなまちづくり」です。昨年11月から供用開始している複合庁舎「くずまゝ」を中心に、コンパクトシティの考え方を軸としたさまざまな機能集約により、町民の利便性が高い拠点づくりを進めるほか、「産学官金の連携による新たなまちづくり」に取り組む、新たな枠

組みと発想で山村のモデルとなる事業展開により、町の魅力向上に努めて参ります。

また、社会構造の変化や人口減少に対応した持続可能な組織運営を支援するため、「各種団体・組織の再編に向けた協議の推進」にも取り組んで参ります。

5つ目は「若者世代が定着できる住環境の充実」です。若者世代から葛巻で生活することを検討してもらえよう、「住環境の充実と住宅取得支援」に取り組む、家族構成に合わせた多様な住環境および環境に配慮した設備などの充実を図ると共に、住宅取得費用の一部を助成することにより、町への定住・定着を後押しして参ります。

また、「空き家・空き地の活用の推進」に取り組む、遊休資産を有効に活用しながら、活気あるまちづくり、地域づくりを目指して参ります。

「挑戦2」循環する「ひびく」づくり
「地域で育み、社会で活躍する人材の育成と確保」

2点目の挑戦は、「循環するひびく」づくり。「地域で育み、社会で活躍する人材の育成と確保」

保」です。

町の次代を担う子どもたちが未来への希望を持ち、健やかに成長できるよう支援し、子育て世代に選ばれるまちづくりを目指すほか、町民一人一人がまちづくりに参画し、共に手を取り合ってまちづくりを進めるための施策に挑戦して参ります。

1つ目は「結婚・出産・子育て」などに応じた支援の充実」です。

葛巻での生活を望む若者が、それぞれのライフステージで求める希望を実現することができるよう「若者世代のUI・Jターの支援充実」「出会いサポートの推進」「結婚ライフサポート事業の充実」を図り、これらの事業の効果的な連携を図りながら、結婚や子どもを望む方々に対する「結婚と出産を叶える環境づくり」の充実に取り組んで参ります。

2つ目は「連携による子育て支援」です。

地域の宝である子どもたちを、子育て世代の皆さんが安心して育てることができるよう、「家庭・地域・行政で支え合う子育て環境の整備」を図り、子育てにおける不安感・孤独感を感じさせない支援策の充実を図ります。

また、これまでもさまざまな町独自の支援策を講じてきましたが、子育て世代の経済的支援のみならず、子どもたちが直接恩恵を受けられるソフト・ハード双方の事業を展開し、さらに子育てしやすい環境を実現するため、「町独自の子育て支援の充実」を図ります。

3つ目は「社会で活躍する人材教育」です。

子どもが学び、成長し、未来を担う人材を育成する場である、町唯一の葛巻高等学校の存続・発展に向け、葛巻らしい教育のフィールドを活かした「山村留学・地域みらい留学制度の充実」への取り組みを継続し、学力向上はもちろんのこと、郷土理解や郷土愛の醸成、交流人口や関係人口の拡大に取り組む、若者の定着を図って参ります。

また、幼児期における知育と小・中学校においては基礎学力をしっかりと身に付けられるよう「就学前教育の充実と児童生徒の学力向上」に取り組むほか、学校だけではなく地域全体で教育を支える「地域で育むコミュニティスクールの推進」に取り組みます。

さらに、幅広い世代が共に交流し、楽しみ、伝え合う場としてはもちろんのこと、子どもた



議会での所信表明を述べる鈴木町長